

人形浄瑠璃文楽

演目 〽️ 文楽の魅力

太夫・三味線・人形の役割解説と実演

桐竹勘十郎さんに聞く「ココがみどころ！」

〽️ 近松門左衛門 作

「姫山姥」廓嘶の段

第二回 岡崎文楽

BUNRAKU

令和7年

10月18日 土

開演 13:00 開場 12:15

岡崎市せきれいホール

〒444-0022 愛知県岡崎市朝日町3丁目36-5

【主な出演者】

〈太 夫〉豊竹若太夫

〈三 味 線〉鶴澤清介

〈人形遣い〉桐竹勘十郎(人間国宝)

※公演内容・出演者については一部変更になる場合がございます。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※ご来場の際には、公共交通機関をご利用ください。

※予約・郵送の取り扱い等については、各販売所へお問い合わせください。

入場料 5,500円
全席指定

【チケット発売】8月17日(日)10:00 から 【電話予約】13:00 から

※電話予約は岡崎市せきれいホールのみ

チケット取扱場所

◆岡崎市せきれいホール ☎0564-25-0511

◆岡崎市民会館 ☎0564-21-9121

写真: 小川知子

協力: 人形浄瑠璃文楽座

【お問い合わせ】 岡崎市民会館

〒444-0072 愛知県岡崎市六供町字出崎15番地1

TEL:0564-21-9121 / FAX:0564-21-6973

チケット Pコード
535-946

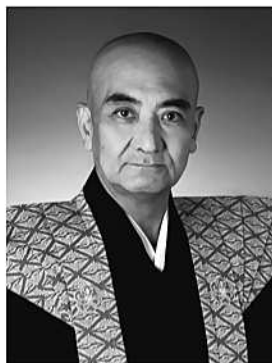


ユネスコ無形文化遺産・人形浄瑠璃文楽

主な出演者



〈人形遣い〉桐竹勘十郎 (人間国宝)



〈三味線〉鶴澤清介



〈太夫〉豊竹若太夫 (切語り)

解説

『おんな姥』廓嘶の段

近松門左衛門作

正徳二年（一七二二）大坂竹本座初演。山姥の化身が深山の四季折々の山巡りを見せる謡曲『山姥』は、自然の壮大さのうちに苦行の連続である人間界の業を伝える、極めて禅味の濃い作品です。この謡曲を借景として、近松門左衛門が数多くの説話で知られる源頼光とその四天王（渡辺綱、碓井貞光、卜部季武、坂田金時）の世界を盛り込んだ作品が、本作『おんな姥』です。

横暴を極める清原右大将高藤らに對抗しようとする頼光のもとへ四天王が続々と結集する筋を軸に、激しい立廻り、親子の別れ、そして謡曲を模した山巡りなどが織りなされます。

みどころ

〈廓嘶の段〉

ご覧いただく場面は、頼光の苦闘と雌伏が始まる中で、後に頼光一党が集結し、反撃に転じる伏線に位置します。総じて荒々しいこの作品中にあつて異彩を放つ段で、源七の奏でる小唄、落ちぶれた紙衣姿の八重桐による華やかな廓の描写、はたまた「神武以来の恪

気諍ひ」といった面白おかしく誇張に満ちた痴話喧嘩など、その明るさが際立っています。そうした明るさが権力争いの暗雲垂れ込める御殿の中で展開される、という趣向の妙が楽しさを一層かき立てるのです。

また、女方役者の荻野八重桐に眞屋源七と、実在した当時の人気役者を役名に盛り込み、さらに近松の好提携者であった名優坂田藤十郎のしゃべり芸を浄瑠璃に採り上げるなど、遊び心やサービス精神に富んだ趣向が凝らされています。

姫君が御簾内に入り、八重桐と源七の夫婦二人になると、高藤と頼光の対立に物語の焦点が移り、洒落た姿の源七が武士としての不真面目を自覚し無念の自害、その最期の一念が妻八重桐の胎内へと籠められ懐胎する、という怪異的な展開となります。この八重桐が転じた鬼女から誕生する金時が加わることで、頼光が高藤らを打倒する体制がついに整うのです。



司会（第一部）
菅沼翔也



バス 名鉄東岡崎駅北口（ターミナル）から中岡崎行、約10分

バス停「岡崎市役所」下車 東へ約100m

徒歩 東岡崎駅より約20分（1.2Km）

せきれいホール駐車場30台

【土・日曜日、祝日】市役所東立体駐車場も利用可能250台/8:30～催事終了

※駐車場には限りがありますので公共交通機関をご利用ください。